

【72】政治家と飛行機

新聞で首相の動向欄を見ていたら、参議院選挙の応援遊説で各地をとびまわっているようですが、以下の行程をみて驚きました。

| | | |
|-------|-----------|----------|
| 羽田空港発 | 8 : 3 7 | (チャーター機) |
| 福島空港着 | 9 : 1 5 | |
| 同 発 | 1 1 : 5 5 | (チャーター機) |
| 能登空港着 | 1 2 : 3 3 | |
| 同 発 | 1 4 : 5 0 | (チャーター機) |
| 那覇空港着 | 1 6 : 5 4 | |
| 同 発 | 1 9 : 0 5 | (全日空機) |
| 羽田空港着 | 2 1 : 1 8 | |

(首相動向、朝日新聞、 2025,7,5.)

と、丸1日で日本の3分の2くらいの距離を旅しているのです。

半世紀前だったら、沖縄は格別、空港の未整備もあり、又、北陸新幹線や東北新幹線も開通していないので、1か所へ行くのに最低一日は必要でしょう。

政治家が飛行機を使って国中を飛びまわるのは、国土の広いアメリカでは古くから行われていたようですが、昭和の初期、1932年(昭和7年)という時点で、選挙の遊説に飛行機で国中を飛びまわったのが、ドイツのヒットラーです。

もう90年以上も昔のことになりますね。

航空便のあるところはルフトハンザの定期便を利用し、それが無いところは、貨物輸送機ユンカースの旅客機版、これは両翼に1つずつのエンジンの他、機首にも1台のエンジンがついている3発の不格好な飛行機ですが、これを専用機にして国中を演説してまわりました。

帝国議会の選挙期間中に57の市町村をまわったと云いますから、ナチス党が1932年の選挙に大勝利、ヒットラーが首相の座を射止め、ついには総統にまで登りつめたのも、飛行機のおかげもあったのです。

アメリカではトランプ大統領は毎週のように首都ワシントンから1500km離れたフロリダの自宅へ帰っているようで、これも飛行機があればこそその話しです。